



全^{すべ}ての苦^く勞^{らう}は 「心^{こころ}の財^{たから}」に

鮮^{あざ}やかな「橙^{だいだいいろ}色のカーテン」、
 は、冬の訪れを告げる「干し柿^ほづくり」。2007年（平成19年）12
 月、池田SGI（創価学会インタ
 ナショナル）会長が東京・八王子
 市内で撮影したものである。

干し柿は、日中に日差しを浴び、

朝^{あさ}晩^{ばん}に冷^{つめ}たい風^{かぜ}にさらされること
 で、自然の甘^{あま}みを凝^{ぎようしゆく}縮^{しゆく}していくと
 いう。人もまた、現状にぬくぬく
 と安^{あんじゆう}住^{じゆう}しては、成^{せい}長^{れん}はない。試^し練^{れん}
 の寒^{かん}風^{ふう}に立ち向^{むか}かうことで、強^しく
 なり、人^{ひと}間^{かん}としての味^{あじ}も出る。

同月の本部幹部会で、SGI会

長^{なが}は呼^よび掛^かけた。「他^た者^さのた^ために
 尽^つくしてこそ、真^{まこと}に充^み実^{じつ}した人^{ひと}間^{かん}
 の魂^{たましい}が光^{ひか}り、燃^もえる」と。信^{しん}心^{しん}に
 無^む駄^だはない。広^{ひろ}布^ふのため、同^{どう}志^しの
 た^ための苦^く勞^{らう}は全^{すべ}て、「心^{こころ}の財^{たから}」と
 いう三^{さん}世^{せい}に崩^{くず}れぬ福^{ふく}徳^{とく}に変わ^{かわ}る。
 心^{こころ}豊^{ゆた}かに、総^{そう}仕^し上^あげの12月^{じふにがつ}へ——。



「栄光あれ!」「幸福あれ!」「健康あれ!」「和楽あれ!」——本部幹部会でのスピーチを終えた池田SGI会長が、遠来の海外の同志一人一人と握手を交わす（1999年7月、八王子市の東京牧口記念会館で）

「永遠の大法」とともに

生きぬけば、

その人生も三世永遠に輝く。

「広宣流布の使命」に徹すれば、

その境界も宇宙大に広がっていく。

わが生命に積んだ福運だけは、

不滅である。

日々、無上の善根を積みゆく

皆さま方こそが、

無量無辺の

「心の財」に包まれた、

最極の「生命の長者」である。

感謝の一念は、福徳を増す。

文句の心は、福運を消す。

どうせ生きるならば、

楽しく生きたい。

同じく信心するならば、

すっきりと、

妙法の無限の功徳を

受けきつていける

信心でありたい。

広布のための行動は、

結局はすべて、

自分自身のためになる。

その根本は「信心」である。

法のため、広布のため——

この一点に、真摯に、

わが心をつなぎ合わせていくことが

大切である。

ここに、

功徳を積む「方程式」がある。

仏法は「心」である。

「心」で決まる。

真剣に、まじめにやった分だけ、

必ず得をする。

ごまかしたり、要領を使つた分は、

あとで必ず苦しんだり、損をする。

その点、仏法は厳しい。

厳しいゆえに、結局、

まじめな人が最後に勝利する。

私どもは

「黄金の心」をもった、

人間としての

「王者」でありたい。

「女王」でありたい。